

## 今里駅(近鉄大阪線)

## 知られざる落語芸人村!片江を訪ねて

今里駅(地下鉄千日前線・今里筋線)

「大阪あそび歩マップ集」  
その3 No.133

## 近鉄今里駅

## ①風月寄席

- 今里を代表する地域寄席です。
- 出演された落語家の色紙がたくさん掲げられています。

## ②吉本興業社宅跡

- 戦前、浪曲師の二代目広沢虎造などが一時住んでいた吉本興業の社宅跡です。その後、スケート場、プール場などを経て、いまはマンションになっています。
- 広沢虎造は、森の石松を題材にした『石松三十石船』で人気を博し、「寿司食いねえ!」「馬鹿は死ななきゃなおらない」といったフレーズは国民的な大流行語となりました。

## ③芸人の町・片江

- 昭和7年(1932)、五代目笑福亭松鶴(当時・二代目枝鶴)が片江町に転居。同じころ、漫談家の花月亭久里丸や漫才師の横山エンタツら十数人も引越してきて、芸人の町が形成されました。
- 松鶴が「楽語荘」と名づけた自宅には、のちの六代目笑福亭松鶴、二代目笑福亭松之助、三代目桂米朝らが出入りして芸を切磋琢磨し、上方落語の復興はここから始まりました。



## ④「ちりとてちん」のロケ地

- 戦後まもなく建てられたというレトロな床屋です。落語を題材にしたNHK朝の連続ドラマ『ちりとてちん』のロケ地になりました。

## ⑤三代目桂米之助住宅跡地

- 三代目桂米之助は、四代目桂米團治に師事し、三代目桂米朝の兄弟子です。六代目笑福亭松鶴から若手落語家の発表の場を確保してほしいと要請され、昭和47年(1972)に自宅のある東大阪市で「岩田寄席」を主宰しました。独力で20年ほど運営し、これは大阪の地域寄席の先駆けでした。また落語に関する知識量が豊富で、三代目桂米朝も認められたほどといいます。

## ⑥演芸場「東楽園」跡

- 昭和5年(1930)開業の今里新地は、当初はこの敷地付近が建設予定地でした。家の丸窓に、その当時の建設構想が残っています。付近の家にも旅館の雰囲気が残っています。

## ⑦「二葉館」跡

- 女流浪曲師・富士月子が経営していた演芸場で、ここで六代目

- 笑福亭松鶴がデビューしました。
- 富士月子は世話物、仁侠物などを得意とし、巧みな節回し「月子節」で人気を博しました。関西女流浪曲の女王として初代春野百合子と並び称される大看板で、平成13年(2001)には二代目桂枝雀などとともに、「上方演芸の殿堂入り」しています。

## ⑧四代目桂米團治顕彰碑

- 四代目桂米團治は道頓堀の生まれで、三代目桂米團治に入門。昭和11年(1936)に五代目笑福亭松鶴の主催する「楽語荘」に参加して『上方はなし』同人となり、「中濱静圃」の筆名で編集・執筆に携わりました。また、昭和13年(1938)に代書人(現在の行政書士)の資格を取得し、当地で「中濱代書事務所」を開き、その経験から爆笑落語の傑作『代書』を創作しました。人間国宝・桂米朝の師匠としても知られています。



地下鉄今里駅

